

猪名川町地域公共交通計画の 基本方針と目標の設定

令和3年（2021年）8月10日

猪名川町

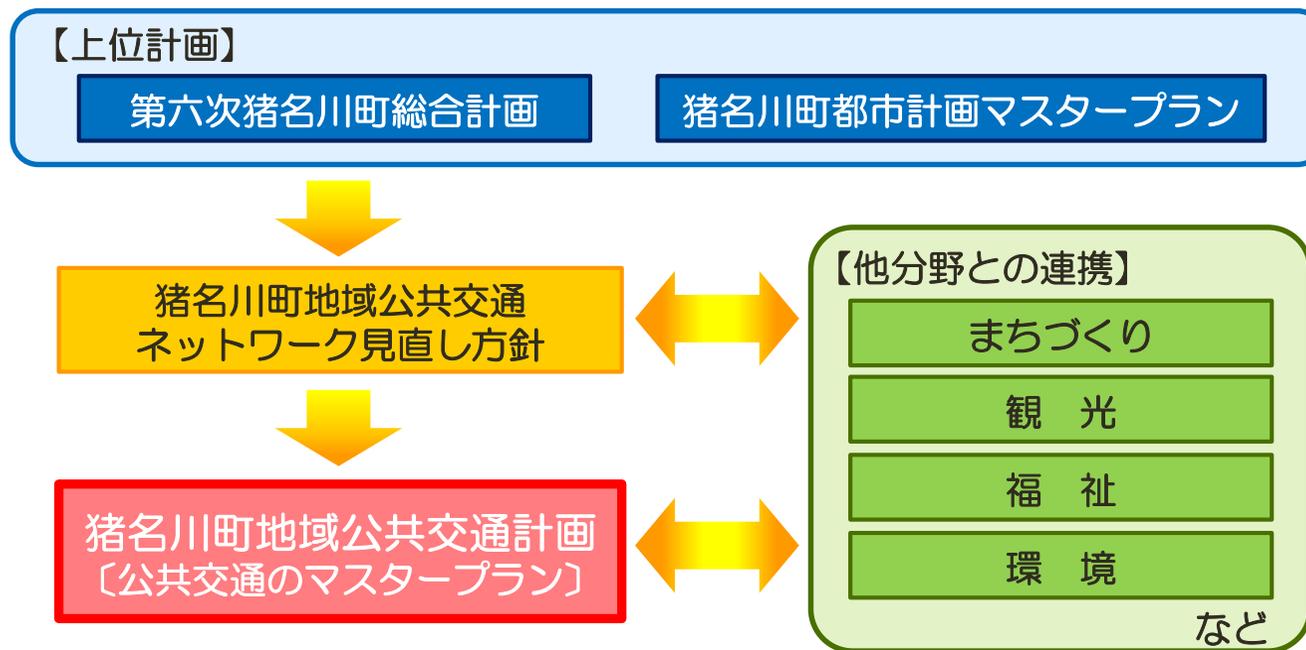


猪名川町マスコットキャラクター
「いなぼう」

1. 計画の位置付け

- 猪名川町では、上位計画である「第六次猪名川町総合計画」、「猪名川町都市計画マスタープラン」と整合を図りつつ、公共交通事業者やまちづくり施策との連携をはじめ、人口減少、高齢化の進展を見据え、コミュニティバス「ふれあいバス」をはじめとする町内の公共交通ネットワークのあり方を定めた「猪名川町地域公共交通ネットワーク見直し方針」を令和2年（2020年）3月に策定している。
- 本計画（猪名川町地域公共交通計画）は、「猪名川町地域公共交通ネットワーク見直し方針」の「猪名川町における公共交通網の基本的な考え方」を実現するために、基本方針・目標・目標を実現するための施策を体系的に整理した猪名川町における公共交通のマスタープランである。
- なお、本計画は「交通政策基本法」の基本理念をもとに、令和2年（2020年）11月に一部改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき策定する法定計画である。

●本計画の位置付け



2. 基本方針

○ 上位・関連計画等を踏まえ、計画の基本方針を以下のように設定する。

- ・猪名川町第六次総合計画では、10年後のまちの将来像「“つながり”と“挑戦” 幸せと笑顔あふれるまち猪名川」を掲げており、その実現を目指しています。総合計画における施策として、「生活や活動を支える交通網のあるまち」の中で、施策の展開方向として、『利用しやすい公共交通の実現』、『新たな交通モードの導入』、『交通・移動に関する意識づくり』を掲げています。
- ・また、まちづくりの取組みとして、道の駅いながわ機能拡大プロジェクト及びプロロジス猪名川プロジェクト（産業拠点地区開発事業）が進められており、産業・観光振興の観点から、日生中央駅や川西市の川西能勢口駅などとのネットワーク化に向けた検討を行い、住民だけでなく、これらの拠点等を通じた市外からの来訪者との交流を促進するような公共交通サービスの構築が必要となります。
- ・猪名川町における公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にありますが、公共交通を必要とする高齢者は、今後も増加が見込まれます。そのため、高齢化の進展や人口減少に対応した日常生活を支える公共交通サービスの構築が必要となります。
- ・したがって、上位・関連計画との整合を図り、猪名川町の地域特性や住民・来訪者のニーズに対応した公共交通ネットワークを構築していきます。
- ・持続可能な公共交通網を構築するためには、行政や交通事業者などが単独で取り組むのではなく、住民、交通事業者、行政が連携する必要があるため、それぞれが担う役割を認識し、主体的な取組を展開していくことができる公共交通を支える仕組みも構築していきます。
- ・猪名川町では、公共交通を「社会的なインフラ（＝基盤）」として位置づけ、基本方針を以下のとおり設定します。

【計画の基本方針】

元気に安心して暮らせる魅力あるまちづくりを支える持続可能な公共交通を構築

3. 公共交通の果たすべき役割・位置付け

- 猪名川町の公共交通は、車社会の進展、人口減少及び少子高齢社会の進行など社会情勢の変化により、公共交通を取り巻く厳しい環境の中で、「町民の生活交通手段の確保や高齢者や学生等の外出を支援するための必要不可欠な社会基盤の一つ」であることを位置付け、公共交通の果たすべき役割を明確化することが重要である。
- 公共交通の役割は、町の上位計画や関連計画である「猪名川町第六次総合計画（令和2年(2020年)3月策定）」や「猪名川町都市計画マスタープラン（平成28年(2016年)3月改定）」の公共交通の位置付けを踏まえ、公共交通の現状や町民ニーズへの対応等から次の役割を果たすことが期待される。

●公共交通の求められる役割

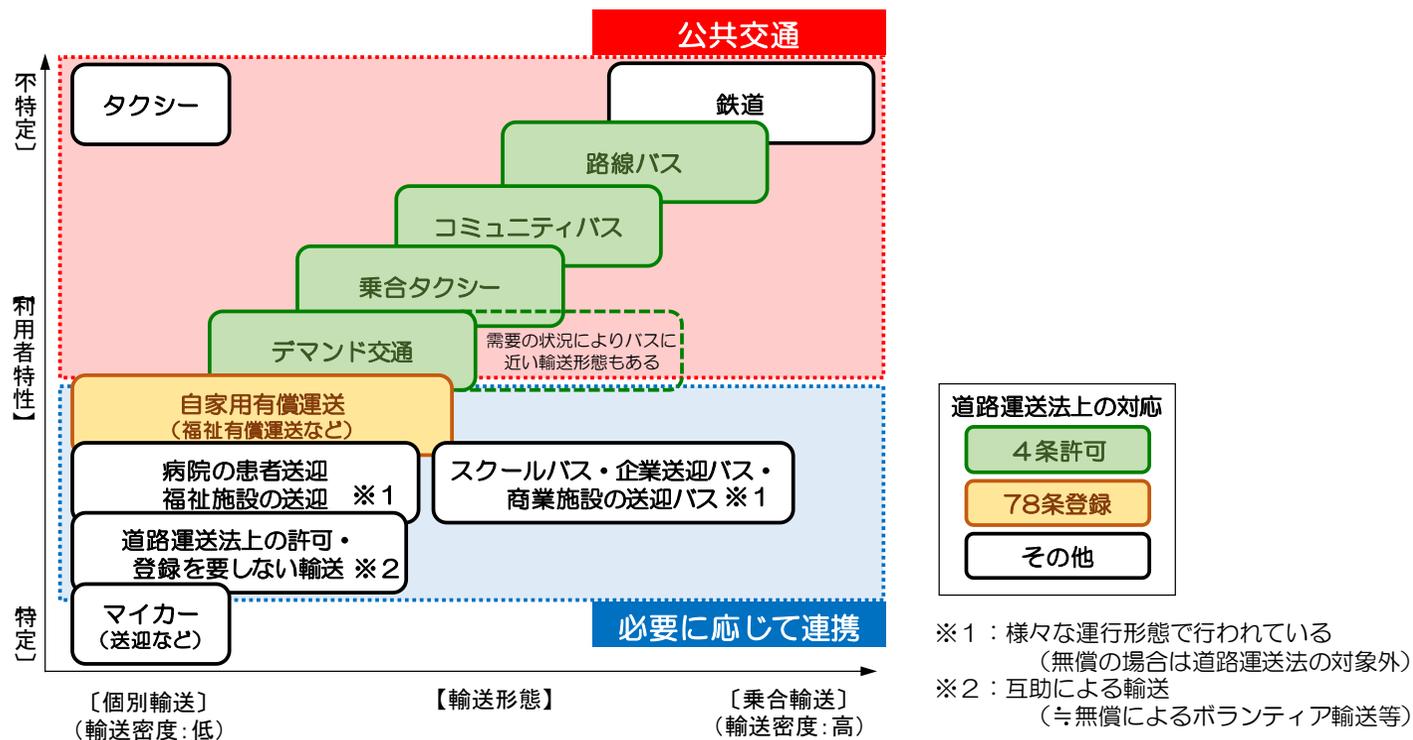


出典：クロスセクター効果「地域公共交通 赤字＝廃止でいいの？」
(国土交通省近畿運輸局)

4. 猪名川町における「公共交通」の考え方

- 猪名川町の公共交通は、鉄道、路線バス、コミュニティバス「ふれあいバス」、チョイソコいながわ、タクシーがある。
- 公共交通は、自家用車での移動が困難な高齢者や学生等を中心とした移動手段を持たない方の日常の移動手段確保、交通不便地域のニーズへの対応が強く求められる。
- 高齢者や障がい者が自立的に生活できる環境整備の一環として、移動手段を確保することによって、外出機会の創出による健康増進、地域活性化への寄与も期待される。
- なお、利便性や効率性の視点から、必要に応じて、特定多数を対象とする福祉交通や利用目的が限定的な民間送迎サービスや道路運送法上の許可・登録を要しない輸送（無償輸送（ボランティア輸送））との連携についても、検討を進める。

●利用特性と輸送形態による公共交通手段の位置づけ



5. 猪名川町における公共交通網の基本的な考え方

- 各交通モードの機能を最大限に発揮するためには、各交通モード単独による利便性や生産性の向上だけではなく、各交通モードで役割分担を行いながら、全体的に連携強化を図る必要がある。
- このため猪名川町の公共交通は、現状の運行状況や役割を踏まえ、「広域基幹交通」、「町内基幹交通」、「生活交通」に機能分類し、階層的なネットワークを構築する。
- また、「乗継拠点」を設けることで、広域基幹交通、町内基幹交通、生活交通の接続性を高め、効率的で効果的なネットワークの形成を目指す。

●猪名川町における公共交通の役割分担と位置付け

機能分類	役割	対象
広域基幹交通	○ 町内と周辺市町を結ぶ町の骨格を形成するために重要な機能を担い、広域的な公共交通の軸として、通勤・通学等町民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道（能勢電鉄：日生線） ・ 路線バス（阪急バス：杉生線（清和台系統）、猪名川パークタウン線、つつじが丘線）
町内基幹交通	○ 町内の地区拠点や地域拠点間を結ぶ町内の骨格を形成し、町内各地域と猪名川町中心部等とのアクセスに重要な役割を担い、町民生活を支える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 路線バス（阪急バス：杉生線（杉生系統）、日生ニュータウン線）
生活交通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 路線バスが乗り入れ困難な地域の生活圏内の移動を支え、猪名川町中心部及び基幹交通（広域基幹交通・町内基幹交通）へのアクセス手段として機能を担い、町民生活を支える。 ○ コミュニティバス「ふれあいバス」では、対応しきれない需要が分散・少ない地域を補完する新たな交通システムも『生活交通』として位置付ける。 ○ タクシーは、他の公共交通機関が運行していない時間帯における地域住民の生活の移動や観光旅客や来訪者の移動等に即時対応可能な移動手段として、猪名川町の公共交通機関として位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバス「ふれあいバス」 ・ 新たな交通システム ・ タクシー
乗継拠点	○ 広域基幹交通、町内基幹交通及び生活交通間の乗継拠点で、待合空間の整備・乗継ぎ情報等機能強化を図るべき拠点として位置付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日生中央 ・ 道の駅いながわ（機能拡大後） ・ 杉生 ・ 六瀬総合センター前

6. 計画目標

○ 基本方針「元気に安心して暮らせる魅力あるまちづくりを支える持続可能な公共交通を構築」の実現に向けて、計画目標を以下のとおり定める。

計画目標①：まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークの形成

- ・猪名川町における公共交通の役割分担を明確化させるとともに、各モードの連携による効果的で効率的なネットワークに再編します。
- ・地域の実情に応じた効率的な運行を図るために、多様な交通システムを活用する等、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築します。
- ・既存の地区拠点や地域拠点をはじめ、「道の駅いながわ」の機能拡大プロジェクトなどの地域経済の活性化に向けた取り組みとも連動し、これらの拠点を機能的に結ぶ公共交通網を構築し、拠点の活性化につなげます。

計画目標②：わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境づくりの推進

- ・路線バスとコミュニティバス「ふれあいバス」のルートが重複し、異なる料金体系で運行している状況を踏まえ、異なる料金体系による料金格差の緩和に向けた新たな料金体系の構築をめざします。
- ・高齢化の進展や運転免許証返納の促進による多様化する移動目的への対応として、公共交通による外出支援をはじめ、学生の公共交通による通学手段の維持・確保などに向けた取り組みを行います。
- ・わかりやすく・利用しやすい地域公共交通環境を構築させるため、快適な利用環境づくりやわかりやすい公共交通情報の提供・発信及び公共交通サービス提供の拡充をします。
- ・ICT（情報通信技術）などの活用により、利用環境と利便性の向上を図ることで、将来を見据えた新たな交通システムサービス（スマートシティ）の実現を目指します。

6. 計画目標

計画目標③：住民・事業者・行政等の多様な関係者との連携による持続可能な地域公共交通の実現

- 公共交通を維持、発展させていくためには、行政及び交通事業者だけの取り組みでは限界があるため、住民をはじめとする地域の関係者、事業者、行政などがそれぞれの立場で役割を認識し、協働により公共交通を支えることで、地域に適した持続可能な公共交通の実現をめざします。
- また、地域の公共交通を地域住民自身で守り育てる意識の醸成を図ります。